



【後期開始】 ～ センター試験まで 107 日 ～

9月20日に推薦入試校内選考会が行われました。推薦入試の受験は、医療系の専門学校では9月末から始まりますが、多くの大学では10月中旬から11月にかけて行われます。また、9月20日は本校内でのセンター試験志願票の提出締め切りでした。数回の点検作業を経て今月4日には発送する予定です。大学受験の願書は個人で記入し、発送してもらいますが、センター試験の志願票は学校を経由して発送することになっています。国公立も、個別の大学の募集要項等は個人で入手し必要書類を準備することになります。一般入試だけでなく推薦入試でも、募集要項はホームページに公表し出願手続きもインターネット経由で、という大学が増えています。提出書類の作成、受験料の払い込みなど、受験にはさまざまな手続きがあります。慎重に行ってください。

1・2年生も、4日にスタディーサポート、31日に進研記述模試が行われます。1年生は9月に文理選択ガイダンスを終えて、24日に大学見学会も実施されます。次年度の文理選択やコース選択を意識して本格的に進路研究を始める時期です。将来を考えることによって、これから学ぶべき方向性が明確になります。科目の苦手意識のような目先だけにとらわれるのではなく、しっかりと情報収集をした上で保護者の方・先輩・先生など、周囲の人にも相談し、検討するようにしましょう。

【推薦入試】 ～ 受験機会は増えるがリスクも ～

「推薦入試」は大きく分けて指定校推薦と公募制推薦の2種類がありますが、一般入試に次ぐ規模の選抜方式で、全体の9割以上の大学が実施しています。推薦入試の定義は「出身学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試」となっています。一般入試との大きな違いは、出身高校長の推薦を受けないと出願できないという点です。出願にあたっては「調査書の評定平均値〇以上」や検定・資格等といった出願条件も設定されており、誰もが受験できる入試というわけではありません。また、一般入試とは違い多くの大学では、「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」専願制の入試となっています（近年、他大学との併願が可能な併願制も増えてきています）。推薦入試を考える場合は、出願するうえで制約があることと、原則第1志望校に限った入試であることを理解しておきましょう。

受験にあたっては、推薦入試向けの準備も必要です。推薦入試対策のために一般入試の勉強時間が割かれること、不合格となった場合には精神的なショックもあるなど、推薦入試にはそれなりのリスクもあります。推薦入試に落ちたときのリスクを十分考慮して出願することはとても重要なことです。また、指定校推薦で受験することは、高校の代表になるということでもあります。大学入学後の学業成績が悪いと、翌年以降の推薦枠の見直し（高校が指定校からはずれること）もあり得るのです。後輩に迷惑をかけないためにも自覚をもって推薦を受けるようにしましょう。

◎指定校推薦と公募推薦の違い

指定校推薦	大学が特定の高校を指定して実施する入試方式。「合格率はほぼ100%」という特徴がある。 (近年、準備不足のため不合格となる例が出ている) 勉強や部活動の成績などを評価する。選考は小論文と面接のみの場合が多い。 * 主に私立大で行われ、自分の在籍する学校が指定校になっていなければ受験できない。	
公募推薦	一般	大学毎の出願資格を満たしており、出身高等学校の校長から推薦された生徒が受験可能。評定平均値に基準があることが多い。選別方法は書類審査の他に面接や学科（能力）試験、面接、小論文などが必要となることが多い。 * 高校の推薦基準と大学の出願条件を満たしていれば、応募できる。国公立大学を含め多くの大学で行われている。
	特別	スポーツや文化活動における実績などが評価される。評定平均値に基準があることは少ない。

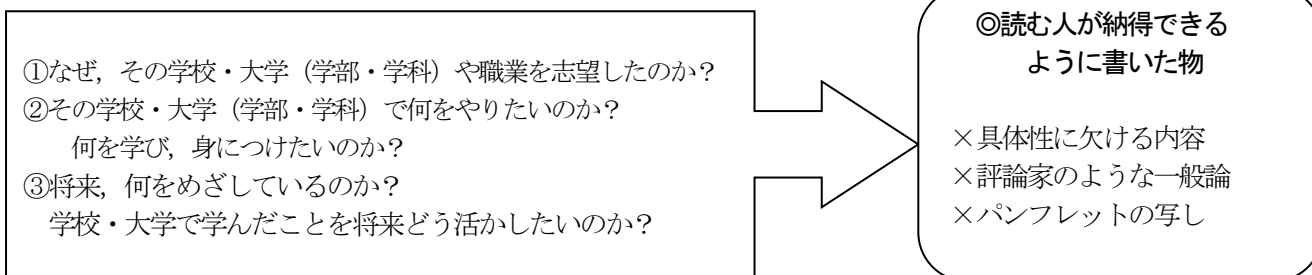
○国公立大学の推薦入試

国公立大学は私立大学に比べて募集人数が少なく、出願条件の成績基準も厳しくなっています。また、センター試験を課す場合と課さない場合の2タイプに大別され、日程も大きく異なります。

【志望理由書とは？】～1年次から意識してほしい～

志望理由書とは「なぜその学校に入りたいのか」をまとめた書類です。AO入試や推薦入試、一部の一般入試で提出を求められるものです。ところが、推薦・AOの受験生が少ないいわゆる進学校でも、2年生の段階で書かせるケースが増えています。なぜ一般入試では必要とされない志望理由書を2年生の段階で書かせるのでしょうか？それは目標を持って学習に励んでもらうためです。志望理由書には「自分が将来どんなことをやりたいのか」「そのために志望する大学・専門学校などでどんなことを学びたいのか」「同じ分野の学校がほかにもある中でその学校を選んだ理由は何か」といった項目は必須です。目指す大学・学部について具体的に調べなければ書けないので、その作業の過程で今まで漠然としていた将来の進路が明確にデザインされていきます。それが大学で何を学びたいか、その学びを通して社会でどんな仕事をしたいかを確認することにつながります。自分の将来が明確になり、結果的にそれに向かって集中して勉強をする大きな動機付けになります。

良い志望理由書とは

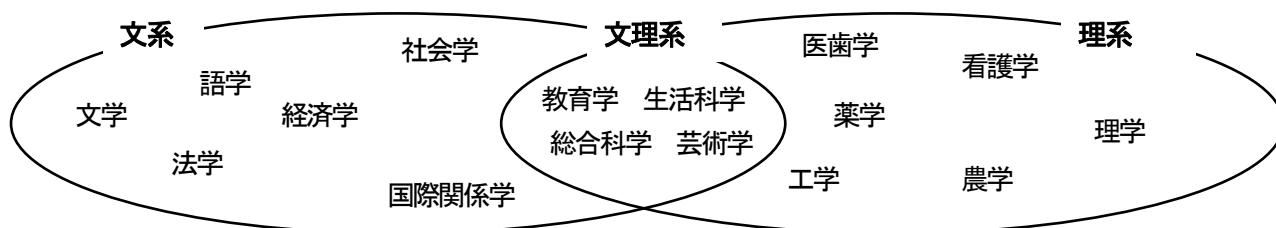


良い志望理由書を書くためには準備が必要です。①のためにパンフレットやホームページを活用することもできますが、オープンキャンパスや学校説明会に行き話を聞いたり、模擬授業や実験に参加したりする実体験が良い材料になります。③の「将来何をしたいのか」を考えるためには志望分野に関係する社会問題や専門用語、目指す職業について調べることが必要です。①から③を踏まえた志望理由書を書くためには情報収集が必要です。1年生は今後大学見学会・出張模擬授業などが実施されます。これらの機会とオープンキャンパスへの参加などを通して書く材料を早期から集め、志望理由書を書くことを通した進路研究を心がけてください

【志望理由書とは？】～1年次から意識してほしい～

1年次から2年次に進級する際に文理選択を行います。文理選択は高校3年間の進路選択の第一歩です。自分なりに調べたり、周囲と相談したりして慎重に選択しましょう。

文系は国語や、社会、理系は数学や理科「だけ」を学んでいるイメージがあるかもしれませんが。しかし実際には、文系でも統計（数学）を用いる学問があり、理系は論文やレポートの提出が多いため、文章を読んだり英文の論文を読んだりする必要があるなど、双方とも総合的な力が必要となります。



これまでの先輩方の選択方法を聞いてみると・・・

- ・ になりたい職業から決める。
- ・ 大学で学びたい学問から決める。
- ・ 周囲のアドバイスから決める。
- ・ 得意科目を活かせるほうに決める。

などが挙げられてきます。しかし、最終的には自分自身での選択です。

将来的に大学で学ぶ姿・就きたい職業などをイメージして、自分自身と向き合い文理選択をしましょう。